化学工学会第79年会 2014/03/19

# 溶質の移動・吸着を考慮した 分散粒子間相互作用モデルの構築

### 〇辰巳 怜, 小池 修, 山口由岐夫 東京大学 工学系研究科



溶質の添加 → 分散安定性に影響

電解質 電気二重層重なりによる相互作用 (DLVO理論)

界面活性剤 粒子表面改質 → DLVO力, 付着力に影響

高分子 吸着層重なりによる相互作用

数値シミュレーションのため

のモデル開発

粒子に吸着する溶質が共存する微粒子分散液

### 運動の連成



本日の発表内容

- ・粒子の影響を考慮した溶質濃度場の移流拡散
   方程式
- (溶質の粒子への非貫入性,吸着の影響)
- 溶質の影響を考慮した流体・粒子の運動方程式
   (溶質を介した流体・粒子の運動量交換)
- •計算例

吸着のモデル化

<ul> <li>物理吸着(可逆吸着) → 吸着層</li> </ul>	
・化学吸着(不可逆吸着) → グラフ	層

相互作用	高分子溶液での 現れ方	効果
粒子-溶質	表面-セグメント 相互作用	<mark>吸着層形成</mark> 架橋引力,浸透圧斥力 枯渇引力(負吸着の場合)
溶媒-溶質	貧/良溶媒	混合効果(貧溶媒:引力) (良溶媒:斥力)
溶質-溶質	セグメント間 相互作用	容積制限効果(立体斥力)

吸着のモデル化



$$\underline{u_{ex}(r)} = \begin{cases} \infty & r < a \\ 0 & r \ge a \end{cases} \qquad \underline{u_w(r)} = \begin{cases} -\varepsilon & 0 \le r < a + w \\ 0 & r \ge a + w \end{cases}$$

吸着強さ:  $\beta \varepsilon = \varepsilon / RT$  吸着層厚さ: w (吸着平衡定数に関係)





仮想濃度場(<u>c</u><sup>\*</sup>): 粒子-溶質相互作用の 影響を除去した濃度場







支配方程式(流動場·粒子)





# 拡散泳動(一定濃度勾配)

粒子直径: d=100 nm

#### **系の大きさ**: 7*d*×4*d*×4*d* (*x*:固定境界; *y*, *z*:周期境界)

11/14

吸着層厚さ: w = 0.25d吸着強さ:  $\beta \varepsilon = 0.5$ 

平均溶質濃度: 1.0 mol /L 濃度勾配: 2×10<sup>9</sup> mol m<sup>-4</sup>





粒子直径: d = 100 nm

吸着層厚さ: w = 0.25d吸着強さ:  $\beta \varepsilon = 0.5$ 

平均溶質濃度: 0.1 mol /L

系の大きさ: 5*d*×5*d*×3*d* (周期境界)





- ・微粒子分散液での溶質の移動・物理吸着を考慮した
   モデルの構築を行った
- 仮想濃度場を導入することで、粒子存在下の溶質移動
   を正確に再現できる
- 当モデルは溶質吸着による粒子間の架橋引力,浸透
   圧斥力を再現できる
- 当モデルを用いることで、流体流動や濃度勾配がある 状況における溶質吸着効果の評価が可能である

### 予備計算(剪断流)

### 溶質吸着なし

### 溶質吸着あり



